

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサークルつくばつなぐ園（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 17日 ～ 2026年 1月 16日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	109	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日 ～ 2026年 1月 23日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的な支援を集団生活の中で受けることができる。	PT,OT,STを始めとした専門職を複数名配置しており、基礎知識としてABA療育を始めとした専門研修を全員が受講したうえで支援に当たっている。	個別支援計画書を始めとした利用児童個々に作成する書類の内容をより効率的に職員全体で共有する。
2	集団生活の中で支援を受けながら専門職による個別支援を受けることができる。	PT,OT,STによるリハビリテーションの視点による個別支援の他、ABA（応用行動分析）が基礎理論においたエビデンスの高い訓練法を提供している。	多職種間で話し合う時間を設け専門職の横のつながり、連携をより強固にする。
3	預かり時間が長く働く保護者のニーズにも答えながら保育的な情操教育も受けることができる。	専門職だけでなく経験豊富な保育士、児童指導員も配置しており、一日の流れを保育に近づけることでインクルージョンを実践している。	保護者が参加できる行事のバリエーションを増やし普段の成長を発表する場を増やす。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団生活の中で常時、児童一人ひとりに完璧にコミットすることは難しい。	教室の利用ニーズが高く、困っているご家庭はすべて受け入れるため利用児童も増加していること。	遊びの時間も支援の枠組みの一つとして捉え、余暇活動の幅が広がっていくことを目的とした活動も十分に取り入れる。
2	児童によっては毎回必ず希望の職種のリハビリ（個別支援）を受けられる訳ではない。	1日の内に実施できる個別支援の数に限りがあることに加えて職種によって人数や出勤日数が異なるため。	児童ごとに担当者を何人が決め、児童の教室利用予定にそって個別支援を提供するスケジュールを事前に決める。
3	行事やイベントを複数日に分けて実施する必要があるが、1日にまとめて利用児童全員に参加させることは難しい。	制度上1日の利用児童数には上限があるため、何日かに分けて実施する必要があるため。	イベントごとに「〇〇週間」を設けその期間は通常の集団活動の一部として毎日イベントに関連した活動を行い、保護者は期間中自由に出入りして見て回ってよいことにする。